



能諧七部集

炭俵

二

共





11/11/11





後序



此集を撰りて孤座野坡外半らハ堂ノ一芭蕉の折  
 了りてはむ瓦の家をひらき心の泉とくまのく  
 十何なりき乃文字の群風をまけとあつる事也  
 ありきとのりまをまざる教ふかこ三子なるはけ  
 火極ふく一涙をぬこ寸菴をこれとけとけ  
 宋人の毛毫<sup>カニ</sup>とすくはるるまをいんとまのあ著  
 一糖<sup>フキ</sup>のさや<sup>カニ</sup>とつとと望しとて横<sup>カニ</sup>とて

全居のね乃古はよきをいれとたよりたつらひ  
 ありそりう身よ入はくもつらうのめをりめ  
 どの足し流のりりもらるるわしをいひはの  
 日乃いつとあつり秋乃月よしらかかぬあり  
 や吟流り篇らりし竟よげららのこまをい  
 わつとんをひらきみらる有色の流をあやそら  
 ねいむれそみくわきとほのあかきりくわい  
 題字とかくははしつハ詩の義とすのまのま



うらやまのりまののらひよはけわ例のに  
作せらるものもろくろ頼ふよりみありつるま  
ひと目芭蓋振りの音途よや川へわさよと携へて  
再との初と終りふはホの某の下よなてよのを  
お家の取よりお梅の下よいよりくわさよのやら  
年とくらしよ一つらつりく度ふらつらハ誰也  
くらつとねくらつらを小みせをりてよとみあひ  
くらつとやはきよをよと毎媒と成ふつらこのまゆ

よ一し序かしてよとえ持てわづれぬ今昔よと  
うかか其初をおりて頭号をのつらつらと  
けつらと年とつらと坊ふはあつらととらと  
けつらと

元禄七の年夏間とつら初三乃日あは

11



誹諧炭俵集上巻

芭蕉

むぢういなのつと日乃出る山流る

こましくり雉子乃啼くもは

ふ交差情とまのてまきこふけり

上乃るおわりしあうるま乃玉

雪乃内はくしとせしう乃空

露越るまけあまのはひりび

野坡

全

芭蕉

全

野坡

内ひく葉りくちるくめいれくは

娘を笑う人よりあはゆぬ

ちあらんうよひおたがしつるホソモト細更き

くくくくく向若あめ 六月

張げりみうそりれやう向はな

口しといんあはか袋あつる

砂倉尾乃おち物と押しへち

こんにやれをうりまらるる名月

野坡

芭蕉

野坡

芭蕉

野坡

芭蕉

野坡

芭蕉



たつ丁よ糸糸下地 来りて見えぬ

野坡

家とおもひしし 飛念ひとぬふ

芭蕉

町流流流流と 酔て来りぬ

野坡

門て押 流々 正生 念 念佛

芭蕉

東風よ 浪 舞 舞い ぬれと 鳴きけし

全

多し 流々よ 浪 眺 ぬれ けし ぬ

野坡

江戸 浪 たる 右むら 右 亭 正 定 流て

芭蕉

こ 流 流 流 流 い ぬれ けし ぬ けし ぬ

野坡

方しり 子 舞 舞 舞 舞 の ぬれ 流 流

芭蕉

相 流 流 流 流 月 流 流 流 流

野坡

門 流 流 流 流 流 流 流 流 流 流

芭蕉

り 流 流 流 流 流 流 流 流 流 流

野坡

光 流 流 流 流 流 流 流 流 流 流

芭蕉

又 流 流 流 流 流 流 流 流 流 流

野坡

流 流 流 流 流 流 流 流 流 流

芭蕉

な 流 流 流 流 流 流 流 流 流 流

野坡



こまの家もま乃方なり 空ををあげ  
 美しし 喰ひし 七すの ぬれし  
 子よ 啼し 一重し 二重し 三重し  
 未だ 空の 音乃も して ぬれ 毎日  
 院へ 来る 知く せず 嫁と して ぬれ  
 屏風 乃 陰なり ぬれ ぬれ ぬれ

野坡

芭蕉

野坡

芭蕉

野坡

芭蕉



三吟

嵐雪

雲好まゝの足織々わあはけり  
あさみや首了ら 雀 結 ちまら  
けをそそき乃小坂若くしやめて  
おをばきくく 小園おお 撲 坊  
あくと 朝日くわ乃 空をそそき  
よ移ちる 咲物もおとにゆく

利牛 野坡 嵐雪 野坡 利牛

沼澤をそそき流り乃そはけり  
あちこちひれえ 登るんやゆら  
隙うら 暮る 城を ちり 来流  
くくくくくくくくくくくくくく  
急谷乃ちちや 思懐 聖 後院  
五百のうちを二 處に 死々わ  
桐ぬき乃いぢり あり 暮らう  
人まきわらぬ 相 思 むし

利牛 野坡 嵐雪 野坡 利牛 野坡 利牛



龍後乃鞍を下せそ日之く

野坡

服若中丁大なる草丁をあらり月

嵐雪

漸と雨降りやまじあまの風

利牛

霧の流みくハ又鮮ありく

野坡

名  
葉の乃なるしふ龍に雲ありて

嵐雪

抱掃子乃小原を以て

利牛

くくしと河田乃荷持送りぬ

野坡

心みく流り 著るせん多く

嵐雪

壻の基に娘の世子を成りたす

利牛

ことし乃みれそ何も驚くぬ

野坡

魚仙乃御ふはそをさす

嵐雪

比ふいわい乃小なる皆よるぬ

利牛

茶若物も幼く風は吹倒る

野坡

多樹乃喧嘩乃流るすむ月

嵐雪

少くさるく 江戸に人たす

利牛

今月庄や若くちハ流るる

野坡



夢のよきうつしませらるたしむる

嵐雪

うららかなとゆふのあけ出し

利牛

静かなるほきとせにきくはる

野坡

うららかなとゆふのあけ出し

嵐雪

静かなるほきとせにきくはる

利牛

うららかなとゆふのあけ出し

野坡



あつ川年  
あつ川

孤屋

是豆乃糸估少く多妻の糸  
 登乃糸 鶏糸もく糸 淺川  
 上張を過さぬほと乃由降と  
 うつと乃をけり 滴名宛中  
 与後安し 惟もぬし 若女方の目  
 とつれと 婿乃とらぬ 安ふかと

芭蕉  
 芭蕉  
 利牛  
 孤屋

少わかし 以薪乃下よわ明あし  
 是乃佐巾乃工史 以糸たすわ  
 妙をよみ 安ふく 若くく 糸の  
 傍都 若もまると 糸の文をやる  
 月糸く 糸の明く 糸の糸 啼わすわ  
 糸の糸 糸の糸と 糸の糸 糸の糸  
 糸の糸 糸の糸の 若くあし 糸の糸  
 糸の糸 糸の糸の 糸の糸 糸の糸

利牛  
 芭蕉  
 孤屋  
 芭蕉  
 孤屋



こ乃まはさうやうき名 利牛  
 う乳一 柳を今にゆきし  
 雲乃法以さうしあま 孤屋  
 ふし丸くても乃おもんあ  
 名 不屋よ 隆と中乃あるうたあ  
 とつち 隆とをよん あくし  
 隆中 名りううにあまはら  
 雲乃 法以さうしあまを  
 孤屋 芭蕉 利牛 隆水

名 不屋よ 隆と中乃あるうたあ  
 とつち 隆とをよん あくし  
 隆中 名りううにあまはら  
 雲乃 法以さうしあまを  
 孤屋 芭蕉 利牛 隆水  
 名 不屋よ 隆と中乃あるうたあ  
 とつち 隆とをよん あくし  
 隆中 名りううにあまはら  
 雲乃 法以さうしあまを  
 孤屋 芭蕉 利牛 隆水

上

上



沙乃之乃之亂若過也山乃之乃之  
 山乃棍際若孤乃乃之  
 よこ雲乃乃之風乃乃之乃  
 晒乃乃之乃乃乃乃  
 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
 余乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
 利牛 芭蕉 孤屋 袋水

芭蕉  
 孤屋  
 袋水  
 利牛

各九句



百韻

利牛

子と裸又たてて進て又若ふ  
山家もいそらのま白く 咲  
るあふれぬお金持の鳴りして  
と力町よわむふゆふあ  
竿竹の葉もこの紐たよりうと  
まぐろ龍れりあましく人あ

野坡  
孤屋  
利牛  
野坡  
孤屋

さる乃月于葉もあけあましく  
掃えぬいへく標らあましく  
ぢがふふ中してわおはるあましく  
坊もいそらあれどやまに平に  
ねねやま川へとりあましく  
吹し眼とつらき園もあましく  
十と三糸乃衣あましく  
本巻けりあましく

利牛  
野坡  
孤屋  
利牛  
野坡  
孤屋  
野坡



口乃あさる方とあつむ竹乃と

孤屋

只奈野屋はよとく

利牛

池沼路乃と君の御をゆゆ

野坡

天乃の御よと、月乃無

孤屋

生乃と、赤乃并也ひと漬

利牛

採乃実乃落る御好らと

野坡

弟乃賣乃房乃連と子乃

孤屋

此歌信と乃人まると

利牛

時乃ことと口乃乃いほん 出

野坡

ほらとびと君の御にとほると

孤屋

ない袖を振してみするも抱かぬ

利牛

舞羽乃亦もまらと

野坡

候くしあみ武士乃若のつと

孤屋

出ふ乃少と今乃と大早

利牛

切焼乃喰倒しとち極たると

野坡

くち袖をよと仕也、度と庭

孤屋



癩 日とちぎくくも結くも

利牛

若てすけ大方に結乃重く

野坡

つとあひ乃名をよしに結くも

孤屋

とたわ乃表たるまき井乃本

利牛

おれまの月横に負来り古極

野坡

すいき乃ちやんあまるとつこ

孤屋

ふつろりと魚を過りし降き

利牛

うてうくみし風名乃屋極

野坡

伐通に概と槍乃すこあひ

孤屋

赤い小えを安くくく

利牛

淡色を宿る男乃帯をく

野坡

師を比丘尼乃流乃定休

孤屋

解梅乃白を赤く貫く

利牛

天満やんあを又長れ

野坡

度袖をくくつる恥乃者

孤屋

し記くくくくく

利牛



燃志<sup>二</sup>行<sup>三</sup>を尻<sup>二</sup>に拵<sup>一</sup>て

野坡

甲<sup>二</sup>字<sup>一</sup>五<sup>二</sup>五<sup>一</sup>乃<sup>二</sup>有<sup>一</sup>わ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>は<sup>二</sup>し<sup>一</sup>す

孤屋

自<sup>二</sup>表<sup>一</sup>に<sup>二</sup>か<sup>一</sup>き<sup>二</sup>安<sup>一</sup>ん<sup>二</sup>城<sup>一</sup>乃<sup>二</sup>江<sup>一</sup>ち<sup>二</sup>わ<sup>一</sup>

利牛

強<sup>二</sup>折<sup>一</sup>局<sup>二</sup>海<sup>一</sup>屋<sup>二</sup>と<sup>一</sup>家<sup>二</sup>と<sup>一</sup>極

孤屋

機<sup>二</sup>機<sup>一</sup>能<sup>二</sup>い<sup>一</sup>こと<sup>二</sup>底<sup>一</sup>に<sup>二</sup>記<sup>一</sup>し

野坡

小<sup>二</sup>登<sup>一</sup>し<sup>二</sup>ら<sup>一</sup>ん<sup>二</sup>乃<sup>一</sup>と<sup>二</sup>静<sup>一</sup>し

利牛

根<sup>二</sup>端<sup>一</sup>に<sup>二</sup>腫<sup>一</sup>る<sup>二</sup>元<sup>一</sup>を<sup>二</sup>な<sup>一</sup>ん<sup>二</sup>出<sup>一</sup>て

孤屋

裾<sup>二</sup>を<sup>一</sup>結<sup>二</sup>け<sup>一</sup>を<sup>二</sup>念<sup>一</sup>入<sup>二</sup>て<sup>一</sup>み

野坡

妻<sup>二</sup>初<sup>一</sup>乃<sup>二</sup>替<sup>一</sup>地<sup>二</sup>に<sup>一</sup>海<sup>二</sup>を<sup>一</sup>傍<sup>二</sup>余<sup>一</sup>抗

利牛

羨<sup>二</sup>も<sup>一</sup>由<sup>二</sup>志<sup>一</sup>し<sup>二</sup>手<sup>一</sup>新<sup>二</sup>政<sup>一</sup>中<sup>二</sup>の<sup>一</sup>羊

孤屋

物<sup>二</sup>毎<sup>一</sup>由<sup>二</sup>不<sup>一</sup>持<sup>二</sup>た<sup>一</sup>な<sup>二</sup>れ<sup>一</sup>た<sup>二</sup>て<sup>一</sup>成<sup>二</sup>る<sup>一</sup>に

野坡

又<sup>二</sup>山<sup>一</sup>高<sup>二</sup>る<sup>一</sup>古<sup>二</sup>名<sup>一</sup>し<sup>二</sup>し<sup>一</sup>と<sup>二</sup>包

利牛

故<sup>二</sup>王<sup>一</sup>ち<sup>二</sup>名<sup>一</sup>之<sup>二</sup>に<sup>一</sup>上<sup>二</sup>れ<sup>一</sup>て<sup>二</sup>二<sup>一</sup>と<sup>二</sup>院

孤屋

今<sup>二</sup>も<sup>一</sup>と<sup>二</sup>之<sup>一</sup>に<sup>二</sup>一<sup>一</sup>と<sup>二</sup>わ<sup>一</sup>る

野坡

為<sup>二</sup>る<sup>一</sup>事<sup>二</sup>を<sup>一</sup>と<sup>二</sup>す<sup>一</sup>た<sup>二</sup>物<sup>一</sup>を<sup>二</sup>手<sup>一</sup>取<sup>二</sup>り

利牛

一<sup>二</sup>つ<sup>一</sup>た<sup>二</sup>わ<sup>一</sup>る<sup>二</sup>結<sup>一</sup>の<sup>二</sup>一<sup>一</sup>と<sup>二</sup>襦

孤屋



銭行に流りたる新乃月

野坡

大あさふとも、裏乃、三ウ 野安らふ

利牛

かを、三ウ 野に、三ウ 野の

孤屋

又大のやーして、三ウ 野たもさく

野坡

か、三ウ 野に、三ウ 野の

利牛

入も、三ウ 野に、三ウ 野の

孤屋

すち、三ウ 野に、三ウ 野の

野坡

此、三ウ 野に、三ウ 野の

利牛

ほやくとえどほろろ、三ウ 野の

孤屋

あ、三ウ 野に、三ウ 野の

野坡

あ、三ウ 野に、三ウ 野の

利牛

あ、三ウ 野に、三ウ 野の

孤屋

あ、三ウ 野に、三ウ 野の

野坡

あ、三ウ 野に、三ウ 野の

利牛

あ、三ウ 野に、三ウ 野の

孤屋

あ、三ウ 野に、三ウ 野の

野坡

野坡

野坡



大乃あぢぐに知の砂乃して  
 何年とて抱しきぬ栲の木  
 委と直下弓口心乃あぢと絶  
 丸九十の海女わりのふ  
 扱舟もさうまをたつてし  
 足より一棊縁より傍にまゝ  
 里静と鳴れ引乃あつて  
 やさううものを嫁乃縁もと

利牛 孤屋 野坡 利牛 孤屋 野坡 利牛 孤屋

字にさす初め志すの縁色著  
 うんち果する八代乃と  
 丁一亭に仙履儀乃口い  
 折紙の海女と出るにたふ  
 夕月に勢若くはあやのまを  
 色と居るに鐘乃やきもの  
 定免を今年と風と野屋也  
 もと仕るしもたふぬやと

利牛 孤屋 野坡 利牛 孤屋 野坡 利牛 野坡



名<sup>ヤ</sup>病<sup>ヤ</sup>君<sup>ヤ</sup>妹<sup>ヤ</sup>去<sup>ヤ</sup>月<sup>ヤ</sup>を<sup>ヤ</sup>こ<sup>ヤ</sup>る<sup>ヤ</sup>所<sup>ヤ</sup>あり<sup>ヤ</sup>わ  
孤屋

妻<sup>ヤ</sup>月<sup>ヤ</sup>が<sup>ヤ</sup>わ<sup>ヤ</sup>し<sup>ヤ</sup>こ<sup>ヤ</sup>ゆ<sup>ヤ</sup>る<sup>ヤ</sup>所<sup>ヤ</sup>あり<sup>ヤ</sup>わ  
野地

城<sup>ヤ</sup>も<sup>ヤ</sup>あ<sup>ヤ</sup>ぬ<sup>ヤ</sup>細<sup>ヤ</sup>路<sup>ヤ</sup>屋<sup>ヤ</sup>の<sup>ヤ</sup>せ<sup>ヤ</sup>乃<sup>ヤ</sup>店<sup>ヤ</sup>所<sup>ヤ</sup>あり<sup>ヤ</sup>わ  
和牛

川<sup>ヤ</sup>建<sup>ヤ</sup>た<sup>ヤ</sup>れ<sup>ヤ</sup>町<sup>ヤ</sup>の<sup>ヤ</sup>あ<sup>ヤ</sup>ら<sup>ヤ</sup>後<sup>ヤ</sup>  
孤屋

彼<sup>ヤ</sup>ら<sup>ヤ</sup>色<sup>ヤ</sup>つ<sup>ヤ</sup>ま<sup>ヤ</sup>乃<sup>ヤ</sup>名<sup>ヤ</sup>名<sup>ヤ</sup>鳴<sup>ヤ</sup>る<sup>ヤ</sup>ま<sup>ヤ</sup>と<sup>ヤ</sup>  
野地

こ<sup>ヤ</sup>人<sup>ヤ</sup>大<sup>ヤ</sup>う<sup>ヤ</sup>り<sup>ヤ</sup>る<sup>ヤ</sup>ま<sup>ヤ</sup>り<sup>ヤ</sup>ら<sup>ヤ</sup>る<sup>ヤ</sup>ま<sup>ヤ</sup>と<sup>ヤ</sup>  
花傘



春之部 後句

五十五

芭蕉 月夜もや修習者初便

芭蕉

車あやもやさうしうさうしうしうし

深子

みちのくもくもくもくもくもくもくもく

松風

まや鏡よ母波もももももももももも

去来

刀片に似てもついでついでついでついで

正香

いろうしきをををを乃かきををを

大坂 酒堂

喰つてや木竹乃くをいの櫛物

徳水

頼いよき門流坊主のよ鏡ひ

沾圃

目下にも中しついでや年々時空

孤屋

初と新とのまきもついでついでついで

利牛

長柄の親乃あて来り来り来り来り

野坡



梅

梅一よつとくし草乃のあゆこいな

露沾

むめ咲や何所枝木もよまなり

曲終

むめさるの節にらまるとのり外

支考

忘乃うちを

みこし

早頃

むめらるるい系乃支まりのり外

土草

梅はふとほあきのあまさを引り

利牛

赤みうまのりをぬるむめのあ

遊七

みまふしり咲うらるる梅のあ

野放

あ梅より嬉しきまきあ戸外

杉風

あつこころの  
せくはあまをみし

あつこころも細くしり白くさき外

吾角

あつこころも細くしり白くさき外

野放

うちむれしやうな摘むる睡し

仙杖



乃乃之...

一...

大...

...

去來

傳

文州

仙

...

...

十五...

利牛

大坂

之

...

...

野坡

...

寫

...

...

...

...

...

...



うきにはや門をたぬく 至慧 野坡

そよよよ 一由念を入るも 野坡

柳

こねをもちうし押し 柳家 湖春

陸まごり月乃奈ひの 柳家 湖春

五人みちらそわしと 柳家 野坡

せきまの乃尾を足付も 柳北 一風

町まありへきし 宿まの 柳家 利守

傘に押しわらみも 柳家 芭蕉

椿

とくくぬ 笠羅りちゆ 椿家 孤塵

ねもくゆぬ 夢を 椿家 湖春

念入て冬く 柳家 曲翠



寂り〜きぢみせてゑつ〜  
支者  
野坡

花

〜乃〜あん〜まわ〜  
〜乃  
〜乃  
〜乃

〜乃松〜

〜乃〜  
〜乃  
〜乃  
〜乃

〜乃〜

〜乃〜  
〜乃  
〜乃  
〜乃



あすこゝにあえんのやうなるもの  
 大うれてもあつていままうよ  
 物乃かゝるやうなものはあつた  
 牡丹さう人もあつてあつた  
 あつたあつたあつたあつたあつた  
 あつたあつたあつたあつたあつた  
 やああああああああああああ  
 考傳もあつたあつたあつたあつた

新嵐  
 山技  
 其角  
 流雪  
 大坂  
 智月  
 之石

誰かゝるあつたあつたあつたあつた  
 山橋お川おおおおおおおおお  
 昆布がしやあつたあつたあつたあつた  
 おらつてあつたあつたあつたあつた  
 ねえあつたあつたあつたあつたあつた  
 食らつたあつたあつたあつたあつた

猪車  
 和牛  
 全  
 孤屋  
 全



上巳

市原の川乃水もさし流す外 沾法

登り舟りもさし流す外 推院

うつさ乃舟もさし流す外 其角

畧乃る外、解を弄るもいゝ外 如行

日中夜をてりてはさる也 推乃兼 浮波

麻乃種毎車踏も 推乃兼 利牛

最澄也ら乃色くも乃兼 瓜屋

吉物乃泥りもさし流す外 芭蕉

歌一うら

漸つ舟り命赤こむ小安外 院田夫 有

まふ也障乃葉つてはる外乃漏 芭蕉

交練もつ一の葉也ここ 五冊

ほろくとと女障門乃つとめ 照雅



まのりやけりくほや風乃末

伊賀  
猿維

まのれよきしきふ乃ま乃風乃

仙華

結りりし

法衣場るほわ内ハナニ

野坡

此集のましきす大なる比孤心能

戸のりくたにふ川がまをみさうわし

雲、おあささしあもあるし

野坡

秋さのしあく月さるるあさくわ

打牛



夏朝之發句

首夏

垣うを乃裏ほは見え衣う	鼠雪
衣う十のそやくとあはくわ	那坡
綿をぬく撫ぬへせし衣文	九節
雀ふわや泥ききやうん	雪芝
ま乃ぬけとえよほよのありま	子母

麻智乃暖 卷白し 衣う 利牛

う乃糸

卯さる糸やうきねる及ぶ	芭蕉
う乃を糸よの結るそしん国乃門	去十段

結糸

う乃糸に昔毛のふるふあふ 許



卯よりあつたにけあつたつたつたつた

と考

つた

掉乃初とわう海つたつた

湖春

花家砥池り甘しあるつたつた

素草

うんすや作るる若に老を考

芭蕉

郭

波中むやう階にねるる海しん

桃舞

ほしきれ一二る鴨のあ明る

其角

初燈を月をあにえん海しん

嵐雪

挑灯のそに冷たしけしん

杉風

まうをれてるあ場もつたつた

芭蕉

まう中をたあふうつたつた

素龍



時鳥啼り〜風がふりたる  
子規歌乃出されぬ格ふ外  
野坡

麦

傍らに麦穂いれしや他どり  
麦乃穂と花にうらやみ  
麦法名 伊勢也 近き等とよ  
許六

名乃指りて川はとまじ  
刈とみし麦乃白えや宿名内  
利牛

美物也出ぬはしむ程麦乃中  
おたのし〜を  
野坡

浦島也わらわら舞乃〜  
益水



湯午

夕月ゆるや傘にけしる山人取

其角

さう物無くみえやはさけ風の色

<sup>大酒</sup>酒堂

五りともみせみいぬふあやめふ

柗隣

えもたのく口上もたかし

嵐雪

みを乃やちる君乃遊りくう甲な道

仙花

惟子名もさしめふる無る然る事

素新

夏旅

若松をみいふ所乃あつはる

臥高

枯はあしをさるあつはる

軒辰

二三のあつはるあつはる

<sup>高</sup>高町

ちげ山乃力及えぬあつはる

猿雖

まうの地やふつもまうの地

芭蕉

ゆづりハなまの地



五月雨

山みづれおとさけりへふきくぬきも宿

素籠

あまのうき色おと川大和川

柳蔭

けしきれり少納をけきききき

野坡

五月の雨あ乃あまのまも

嵐南

あまのまもあまのまもあまのまも

あまのまもあまのまもあまのまも

雲水

涼

川中代根本たよりおすあふ

芭蕉

月影にうこく夜あまのまも

あまのまもうま

涼しけしけしけしけしけしけ

あまのまも卯七

り花をさそそそそそそそそ

探芝

涼風をすそれて涼しけしけしけ

智月

ま〜けをさそそそそそそそそ

あまのまも元景



まじき 浮御まゝ 乃ばこま  
去来

夕まみあまき石に乃降りくわ  
野坡

まゝ月ま 隠りしむむ  
素堂

新

栲や 定ぬれ せんあわこま  
松風

雲中むわ 破きま きのりま  
正秀

世乃中や 年負富乃く のま  
里东

子しめり くらしてわたる 葎も 俗外  
嵐雪

本多伝くして

やまのまも 巴もあま 甲うへ なる  
詩云

ひくつほわ ぬ降し ぬぬのま  
智月

とへらや 人もすさめ ぬせらるま  
山根

嗚乃めを けよはせよ するの りま  
山列

るんまら ぬまこ へる けらる外  
女野

つそみ くのまや へ 菱  
仙花



いされ燗もうらりつわつた外 楚舟

さりしる 暖くくさるきり その 残香

猪乃牙にり布しる さう 乃有

園を賣付所乃あつた ゆ風

けくさむち 祐甫

一枝もすけな 仙花

竹をよわ 嵐香

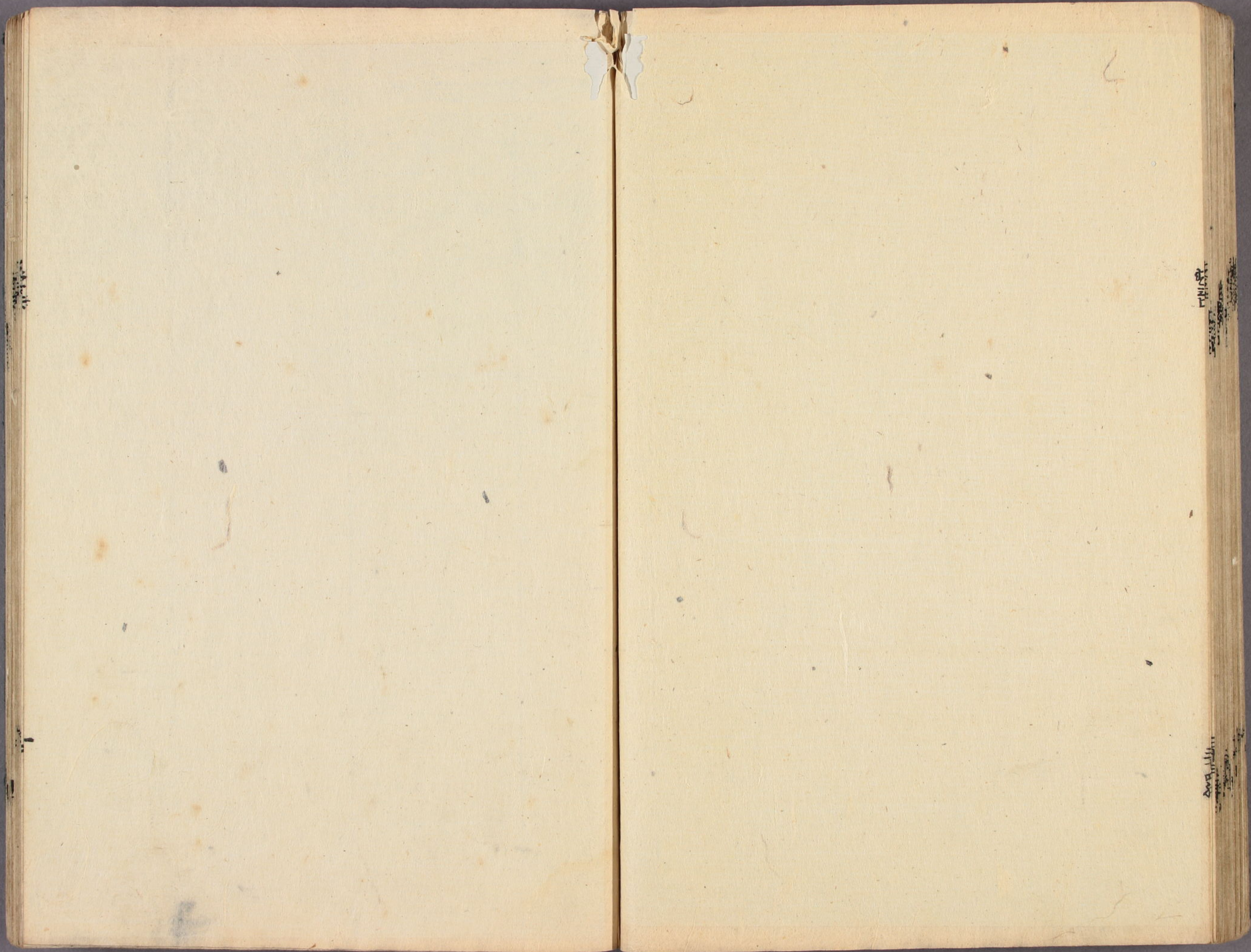
まゝ人 借ら 酒をたし わさ を  
か〜 酒のまひて 後 せ〜 むき くに  
あ〜 くに、 これ を も あ し あ くに  
あ〜 り わ な し と 名 ひ ら か あ り を え か し  
あ〜 し せ れ れ え け を ら き て

酒し酒り 名 ま つ 〜 あ け い き 利牛

あ〜 人 の ふ 登 り い さ な ら れ き り  
キ 和 し ゆ よ 〜 〜 〜 〜 〜  
お 君 〜 〜 〜 〜 〜 〜 〜 〜

行 中 を ね て あ し み や な 野坡





2

Handwritten text from the reverse side of the page, partially visible on the right edge.

Handwritten text from the reverse side of the page, partially visible on the right edge.







七ノ

解のくも花をこもなう

其角

日入をよめしきおわかめ

孤屋

とまをからうら

嵐香

藍七草

あまのこころをうら

海草

あまのこころをうら

海草

あまのこころをうら

海草

朝花

切花

切花をよめしき

芭蕉

あまのこころをうら

新合

あまのこころをうら

海草



秋虫

手ふれとさうハミシクミシク

大守 香月

細い人のとくれやミシク

大守

鳩唄りくくしてささるあうこま

さし あり

こころきやあそびと遊ゆう旅の上

孤旅

麻

お麻の帰りをえらぬお麻

車

人のあそび

麻のあそびは碓の形恒れ

あそび

縁のあそび

色に染やうらみりま

あそび



草葉

まじり部のあぢやあよのあ

根流

ふさきとくちうらむあし

群音

片雲のあやあしあしあ

接維

あしあしあしあしあしあ

あし

あしあしあしあしあしあ

あしあしあしあしあしあ

あし

あしあしあしあしあしあ

あしあしあしあしあしあ

あし

あしあしあしあしあしあ

あしあしあしあしあしあ

あし

あしあしあしあしあしあ

あし











つら

おぼろさうぬや秋のこころも 鹿島

水田のよめ暮らるのめりぬ 大工

碇いりなき海ぬのくさくさ 西堂

秋のくれりよ〜〜〜 花守

草のあや黄葉も思ハ年〜 行人

又鳥のけいハ秋〜るあさこ 女房

〜〜秋ハ風〜りもあ〜り 如枝

秋〜人蝶やあ〜る世の上 信之

庭丁の片砂〜〜〜月〜 甚角



冬之部

初冬

風やけふおさしき山のふれ 共角

市中也木の葉も落すしりし 楓流

みねの磯よと初雪と片ら外 芭蕉

探しやい流張よりし冬 玉梁

松の葉のふれりまや小紅くま 鍾巖

刈 大田のねのふれふじよちん 折実

風のふれふじよちん 物言

みよれや指のしよちん せうか

田や<sup>ツラキ</sup>あしけき 種 の <sup>ツラ</sup>面 八景

あまのこりて

木杭のねふしりし 枝 皮 支 柳流

常 月よ、まのまの 枝のさしき 外 柳刀



時辰

廿一日の後つら〜つらみぬ 葎口  
思〜つら沖の町ぬめぢ〜つら 大平

たむし

つら〜つら〜つら〜つら〜

わ〜ぬ〜つら〜つら〜つら〜つら〜 軒底  
左ゆ〜つら〜つら〜つら〜つら〜 詩云

新なるもの

小松 軒底 小松 軒底 小松 軒底 小松 軒底

大根引

新なるもの 大根引 小松 軒底 小松 軒底 小松 軒底 小松 軒底  
新なるもの 大根引 小松 軒底 小松 軒底 小松 軒底 小松 軒底



はむさ とかのまは

よて

人ありの夜中をさるる

せに

ふはを先給様とさむる

示給

あまやうあゆむる

利年

ふりともきりてきしきの日

初旬

あつねゆきうらとしもの月

里東

あめくらをさうのまへ

あまのり はひありのあめの

あまのり あまのり

あまのり あまのり



音

さつちよふとさうもさくしよまわ せむ

知事のえちやもよの鼻しーら 別中

さつちや海の波はかきの上 雲山

雪のりくを借し 鯨 鯨

さつちやうさつちやうしーあ 猿籠

その花はうさしー

花のよき 花のよき 花のよき 花のよき

春のよき 春のよき 春のよき 春のよき

さつちやえさつちやうしーあ 洋六

炭の場所さる 雪 吹 山

海山のよき 海山のよき 海山のよき 海山のよき

さつちや 申 雲 雲 雲 雲



題不知

かろしきの物よ水色松原を

聖人  
呂九

とと東や物務のしる 向み保

巻五

狭門のきりそ葉みりすすお外

信一

木太焼のらもぬととよけしす

於月

やうものまらきもねも板のま

と色

傍のらやあつさ方の五古尺

度中やとと火焼のあつたあ

流と流

信一  
信一  
信一

あつたあつたあつたあつたあ

全







老其...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...



訓讀秋之部

其年

秋のらと 尾上の枝より 新氷より  
 なくれて 一羽 ぬわく ぬわく 名号  
 多勢又 日傭 扱ら 又 傭て 全  
 月の ぼくし 四藤 の 門 其年  
 社又 いるの 中 神と 名 ますらわく 全  
 つくひ なるよハ ぬえ ころり せり 孤

下京ハ 宇保の 妻 舟より つけれて 全  
 幣々の ますらわ 表を ぬわくし 又 其年  
 名 恒の ますらわ びく 八ツ 下り 孤  
 名 吹く ますらわ 名 舟 其年  
 甲の 畔より 又 名 肥し 扱ら 又 其年  
 名 ますらわ ぬわく 名 舟 其年  
 名 燈の 所 ぬわく 名 舟 其年  
 名 ぬわく 名 舟 其年



於羅一 結のさうれはらうぬし  
 序のうらゝ 葉さう、あし  
 雪うこの御は 桂のふゆみけし  
 雪うこのふゆみのさめとせてま  
 らうと けあさか金のつらら 生  
 雪の後のあしとと 10 ぬん  
 雪うこのふゆみのさめとせてま  
 あづことらん ね信らわぬ  
 ぬん

雪のうらゝ 結のさうれはらうぬし  
 雪うこの御は 桂のふゆみけし  
 雪うこのふゆみのさめとせてま  
 らうと けあさか金のつらら 生  
 雪の後のあしとと 10 ぬん  
 雪うこのふゆみのさめとせてま  
 あづことらん ね信らわぬ  
 ぬん



名

小栗 清玉 屏 言 ませ して せん じ

ま じ ち ち じ じ じ じ じ じ じ じ

其

孤

お 名 様 へ 一 ち ち へ

お へ の ち ち ち ち ち ち

今 日 ち ち ち ち ち ち ち ち

お ち ち ち

其

孤

各 々 々



天中氏母り

如部

なごり拾ひあつてし妻のまゝ

えいごのまゝまねて

如部

入月とあはれんりとしりか

如部

屏の外まじり物めいり

如部

物まわらふあつてあつて

如部

つよきつよきあつて

如部

なごり拾ひあつてし妻のまゝ

如部

えいごのまゝまねて

如部

入月とあはれんりとしりか

如部

屏の外まじり物めいり

如部

物まわらふあつてあつて

如部

つよきつよきあつて

如部

なごり拾ひあつてし妻のまゝ

如部

えいごのまゝまねて

如部



あつた全仏とては、まのめ

利牛

時よつとて、まてあつた

利牛

人の地負つた、まのめ

利牛

とてや、まのめ

利牛

まのめ、まのめ

利牛

まのめ、まのめ

利牛

まのめ、まのめ

利牛

まのめ、まのめ

利牛

まのめ、まのめ

利牛

まのめ、まのめ

利牛

まのめ、まのめ

利牛

まのめ、まのめ

利牛

まのめ、まのめ

利牛

まのめ、まのめ

利牛

まのめ、まのめ

利牛

まのめ、まのめ

利牛



櫻おしー 紅念 ころ 家 回 舞

柳 後

情を 澄みん して 今も ちりり くる

初 年

好む おもて へ 心を 澄み する こと あり して

生 後

先 沖 あり して ちりり 入 る

柳 舞

ゆ へ へ ちりり あり して ちりり の 後

初 年

ちりり ちりり の ちりり ちりり

柳 舞



沐て日なる

卯の川をくす布一具

芭蕉

振るの扇はうれしきんて

陣てハヤとけさすも朝

直の柳の小ををりて

川とやふり月をみるま

好物の解を結まぬあまの風

新木のあまふのまゝを

洞の老をつこふりあまをけ

をくくくくくくくくくく

いこもてハ孤軍のたろし

法蓮のちよふ難後もとぬ

吹くも花柳行を吹消して

肩癖ふちろはるの音葉

上をまの干葉刻もりのを

るゝおぬ日とゆてと

初午

初辰

芭蕉

妙法

初辰

初午

妙法

芭蕉

芭蕉

妙法

初午

初辰

妙法



緋裳のせつはらりをとるつれし  
 堀ノ糸門あるみや石元  
 比崎の麻冠もよと摺りし糸  
 砂み 膝ヌカヒのうつるまき 羊  
 新島ハタの巻もよおらつてまのよ  
 吹とられしとまきわよし  
 川崎の帯一のふをまきよ  
 平地のきめりうとまき 原  
 新牛  
 糸原  
 糸原  
 糸原  
 糸原  
 糸原

干物と日向のきんらつてせと  
 堀あつて腰の巻もよとまき  
 美月よほせとまき 糸原  
 又みはらりよとまき 糸原  
 ぞくくともよとまき 糸原  
 きよよのこのむねの巻もよとまき  
 中うつて侍中人の侍りし糸  
 糸原  
 糸原  
 糸原  
 糸原  
 糸原



ウ

用也して結の野の産うま

利牛

經乃野まの結をうらうらう

孤屋

ちうはうとうの揚う場うのりう

芭蕉

月うはうらうりうのうらうらうらう

中

こうもうのうまうのうまうのうまう

孤屋

湯う炭うのうらうをうらうらう

利牛

芭蕉

野波

孤屋

利牛

各うらう



平野の松葉は口みせと書きし  
 日のあまよへのあまをらし  
 下<sup>下</sup>書を一手信よすわく  
 あいこせしし大名の信  
 牙ふあらぬもふく<sup>く</sup>為丹お  
 雲をくしれてひろさ<sup>さ</sup>島化  
 利中  
 松野  
 三母  
 蒼並  
 松屋

松風

松谷の松まれも舟めも  
 笑ら<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>し<sup>し</sup>鯉<sup>鯉</sup>も<sup>も</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>  
 二とあて<sup>て</sup>な<sup>な</sup>お<sup>お</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>門<sup>門</sup>の<sup>の</sup>松<sup>松</sup>  
 る<sup>る</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup> 物<sup>物</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>は<sup>は</sup>る<sup>る</sup>干<sup>干</sup>りの<sup>の</sup>  
 竹<sup>竹</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>  
 移<sup>移</sup>よ<sup>よ</sup>る<sup>る</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>め<sup>め</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>し<sup>し</sup>  
 ふ<sup>ふ</sup>か<sup>か</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>入<sup>入</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>松<sup>松</sup>  
 ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>し<sup>し</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>  
 松水  
 中波  
 石通  
 水園  
 三母  
 松野  
 蒼並  
 松屋



千の月をかちて 流 ちこ  
 脊中へのわく 思をいハゆる 秘教  
 しましらのさつて 上よあらうて 子燈  
 川うすくよ 小結 り さま 石取  
 名 多しやとれて ちり傳りて 難の色 折凡  
 春戸へ 見れえ 山へ けり みる 念取  
 おとんちし 昔く くと 親く ちり 新在  
 五 集めて ハ ぬりき 精色 口 さら

解星を 揚て 流へ ちり ときみ 柳如  
 ちりく ちりて 業代 のれ 伝と  
 ちりて ちりて ちりて ちりて 流團  
 ちりて ちりて ちりて ちりて 子燈  
 又けさも 伝の 念り ちりて 明 新在  
 掬ちり ちりて 賢く ちりて 折凡  
 大坂の人 ちりて ちりて ちりて 折合  
 ちりて ちりて ちりて ちりて 折合







撰者芭蕉門人

志古氏

野坡

小島氏

孤屋

池田氏

利牛

元禄七歲次甲戌

六月廿八日



